

スポーツ・ファンの応援がプロ野球に与える影響

The influence of the fans on professional baseball game outcomes

1K07B063-2 菅野茜

主査 リー・トンプソン先生 副査 岡田桂先生

【緒言】今日のスポーツは、スポーツを“見る人”と“する人”が明確に区別されている。特にプロスポーツにおいて、スポーツをする人と見る人は同じ空間にいながらもフィールドとスタンドという、明確な境界線をもって役割が分担されているのである。プロスポーツ選手、すなわちスポーツをする人は、すぐれたプレーを披露することによってそれを見ているスポーツ・ファンを魅了し、感動を引き起こす。一見すると、プロスポーツ選手がプレーを披露することによって周囲に影響を与える立場であり、スポーツ・ファンが影響を受けるというように感じられる。しかし、はたして本当に影響を与えているのはプロスポーツ選手の方なのであるか。

プロスポーツというのは観客がいて初めて成立する、いわば見せ物なのである。もちろん、選手は観客の存在を十分認識したうえでプレーに臨んでいることであろう。そのように、スポーツを“する人”が“見る人”を認識しているのであれば、“見る人”が“する人”に影響を与えている場合も十分ありうるのではないだろうか。そんな疑問から本論文ではスポーツ・ファンがプロスポーツに何らかの影響を与えるかどうかを分析・考察していく。本論文ではプロ野球とファンに焦点を当てた。

先に述べたように、スポーツ・ファンはプロスポーツ選手のように直接試合に参加することはできない。また、選手のプレーやインタビューで発せられる言葉から、プロスポーツ選手が、スポーツ・ファンから何らかの影響を受けているということを確認することは不可能である。そこで、スポーツ・ファンが試合会場で必ずと言っていいほど行い、また選手の耳や視界に直接入るであろう“応援”に着目した。スポーツ・ファンがスタン

ドで繰り広げる応援は、選手のプレーやゲーム内容に変化をもたらすのだろうか。2010年度プロ野球 576 試合の結果をもとに、ファンの応援量とゲーム内容に、何らかの関係があるかを探る。

【第 1 章】プロスポーツ選手とスポーツ・ファンが明分化された経緯を、参考文献を用いて説明している。

【第 2 章】スポーツ・ファンのさまざまなタイプについて説明している。単にプロスポーツを楽しむ人のことをスポーツ・ファンとひとくくりにしてしまうのではなく、スポーツ・ファンを【テレビを通してスポーツを楽しむスポーツ・ファン】【プロスポーツを身体に同化させて楽しむスポーツ・ファン】【応援という行為を楽しむスポーツ・ファン】に分類し、それぞれのファンがプロスポーツに対して感動し、熱狂する理由を説明した。スポーツ・ファンがプロスポーツに熱狂する理由は様々であるが、選手に影響を与えるほどファンの熱はすさまじいということがうかがえる。

【第 3 章】各チームペナントレースの勝敗/得点/失点/打撃成績等の戦績が、観客動員の推移によって一定の傾向が見られるかを分析・考察した。分析の対象は、プロ野球 2010 年度のペナントレースにおける両リーグの首位 2 チーム（セントラル・リーグ：中日ドラゴンズ/パシフィック・リーグ：福岡ソフトバンクホークス）と最下位 2 チーム（セントラル・リーグ：横浜ベイスターズ/パシフィック・リーグ：東北楽天ゴールデンイーグルス）計 4 チーム 576 試合である。

【第 4 章】第 3 章と同様 576 試合のデータを用い、ホーム/アウェーという試合環境の変化によって、また試合環境の変化と観客数の推移を合わせて比較し、各チームの戦績に何らかの傾向が見られるかを分析・考察した。